

平成19年2月

「フリーター・ニート」問題に対する  
高等専修学校の教育支援に関する実態調査  
報告書

全国高等専修学校協会

制度改善研究委員会

## まえがき

高等専修学校は、不登校、高校中退、フリーター、ニート、障害児教育と今の教育界で問題となっている多くの問題に対して素早い対応を行い、高等学校では出来ない教育を行っていると言う自負があります。しかし、この少子化や公立学校改編の渦の中で、高等専修学校の存在感が薄れていることも事実であります。

そこで、制度改善研究委員会では、深刻な社会問題となっている「ニート、フリーター」問題に着目し、その調査研究の成果を発表し、普及することで、社会問題の改善に役立て、高等専修学校の教育の重要性を社会にアピールしようと考えました。更に、高等専修学校が行っている職業教育の重要性を理論付けるためにも、「ニート、フリーター」への対応の実情について会員校にアンケート調査を行いたいと考えた次第であります。

専修学校の1条校化を推進している今だからこそ、この成果を全国に発表し普及させることで、高等専修学校の行っている職業教育の成果をアピールし、高等専修学校の未来のためにも、この学種の社会的認知と地位向上に直結することを願っております。

最後に、今回の調査に関しましてご協力いただきました全国の会員校関係者の皆さんに感謝を申し上げますと共に、是非、この冊子を活用し、地元の中学校等の教育関係者に高等専修学校の教育をアピールしていただければ幸いです。

《協会会員数230校：学校用アンケート回答数107校（46.5%）、生徒用アンケート回答数：6,293人》

### 制度改善研究委員会委員名簿

(順不同・敬称略)

委員長	清水	信一	(東京：武蔵野東技能高等専修学校)
リーダー	瀧澤	勉	(千葉：瀧澤学園千葉専門学校)
委員	佐藤	昭男	(東京：中央工学校)
委員	小川	明治	(愛知：名古屋工学院専門学校)
委員	渡辺	正司	(東京：武蔵野東技能高等専修学校)
委員	大岡	豊	(兵庫：国際情報高等専修学校大岡学園)
委員	岩谷	大介	(神奈川：岩谷学園高等専修学校)

## 目 次

### 「フリーター・ニート」問題に対する 高等専修学校の教育支援に関する実態調査 報告書

まえがき・制度改善研究委員会名簿

#### 第1章 学校用アンケート調査

1. 調査内容	2
2. 調査結果・考察	4
問1 「貴校に在籍する生徒数の内訳について、不登校生徒数ならびに 高校中退・既卒の生徒数も含め、お答えください」	4
問2 「ニート、フリーターにならない為の教育として、どのような対応を されているのか」	5
問3 「過去3年間で貴校に在籍した不登校生徒ならびに高校中退・既卒の 卒業生の進路についてお答えください」	6
問4 「ニートやフリーターを出さないために、貴校が工夫している点を自由に ご記入ください」	7

#### 第2章 生徒編アンケート調査

1. 調査内容	16
2. 調査結果・考察	17
問1	
A 「過去に『学校に行かなかった、行けなかった』経験のある方に質問です。 いつ頃から学校に行かなくなったか、あるいは行けなくなったかをお答え下さい」	17
B 「高校を中途退学した方に質問です。中途退学した理由をお答え下さい」	18
C 「中学卒業後、進学をしなかった方に質問です。理由をお答え下さい」	19
問2 「高等専修学校に入学した動機をお答え下さい」	20
問3 「現在の状況についてお答え下さい」	20
問4 「将来の目標についてお答え下さい」	21
問5 「高等専修学校に入学してあなたは中学校時代と比べて変わったと 思いますか。自由にご記入ください」	22

#### 第3章 総括

まとめ	26
-----	----

## 第 1 章 学校用アンケート調査

## 1. 調査内容

全専各連総発第68号  
平成18年6月22日

全国高等専修学校協会会員校  
理事長・学校長殿

全国高等専修学校協会  
会長 大竹通夫  
制度改善研究委員会  
委員長 清水信一

公  
印  
省  
略

### アンケート調査へのご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より当協会の事業に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、近年「ニート、フリーター」の問題が、深刻な社会問題となっております。その「ニート、フリーター」に対する職業教育支援の方法として、高等専修学校が職業教育を通して行ってきた成果を活かすことは可能であると考えられます。そこで、制度改善研究委員会では、「ニート、フリーター」への対応や研究成果を調査研究し、普及することで、社会問題の改善に役立て、高等専修学校の教育の重要性を社会にアピールしようと考えました。よって、高等専修学校が行っている教育の重要性を理論付けるためにも、「ニート、フリーター」への対応の実情について会員校にアンケート調査を行いたいと考えました。

つきましては、アンケート調査用紙（2種類）をご送付いたしますので、ご多忙のところお手数ではございますが、アンケート調査の趣旨をご理解頂き何卒ご協力の程お願い申し上げます。

#### ① 「職業教育に関するアンケート [学校用] 」

直接同封の調査用紙にご記入いただき、当協会宛にFAX、又は郵送にてご返送ください。

#### ② 「生徒アンケート」

同封調査用紙を全校生徒分コピーして実施をお願いします。尚、調査用紙は、学校で取りまとめて、当協会宛に郵送にてご返送ください。

尚、ご回答は、平成18年7月14日（金）までに、下記までFAXと郵送にてご返送くださいますよう、お願い申し上げます。また、ご回答の困難な問に対しては、無記入でも差し支えございませんので、できる限りのご回答・ご返送にご協力をお願い申し上げます。

今回の調査結果に基づいて、高等専修学校の教育の発展が図られるよう、協会として尽力して参りますので、ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

敬具

〈お問い合わせ・ご返送先〉

全国専修学校各種学校総連合会 事務局 全国高等専修学校協会  
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 私学会館別館11階  
TEL 03(3230)4814 FAX03(3230)2688

高等専修学校における、「ニート、フリーター」に対する  
職業教育に関するアンケート [学校用]

都道府県名 ( ) 貴校名 ( )  
 専門分野 ( 工業・農業・医療・衛生・教育福祉・商業実務・服飾家政・文化教養 )  
 記載者ご芳名 (役職名) ( )

問1. 貴校に在籍する生徒数の内訳について、不登校生徒数ならびに高校中退・既卒の生徒数も含め、お答えください。

- ※ 不登校生徒・・・中学校時代不登校を経験していた生徒を指す。また、不登校とは学校基本調査にある年間30日以上欠席のあることを言う。
- ※ 既卒の生徒・・・中学校を卒業して就職または上級校に進まなかった生徒
- ※ 単位制別科・・・高等学校との技能連携制度を活用した単位制の設置、または職業教育に関する本科以外の取り組みを指す。
- ※ 在籍数に関しては、平成18年5月1日現在の数でご回答ください。

	在籍数		不登校生徒数		高校中退・既卒の生徒数	
	全日制	単位制別科	全日制	単位制別科	全日制	単位制別科
全学年	人	人	人	人	人	人
第1学年	人	人	人	人	人	人
第2学年	人	人	人	人	人	人
第3学年	人	人	人	人	人	人

問2. ニート、フリーターにならない為の教育として、どのような対応をされているのか、次の中から選び○を付けてください。(複数回答可 該当すると思われるものはすべて○をして下さい。)

- ① インターンシップ (職場体験)      ② e-learning の活用 (遠隔教育)
- ③ スクールカウンセリング      ④ キャリアカウンセリング      ⑤ 訪問指導      ⑥ 個別指導
- ⑦ 職業支援
- (具体的な方法: )
- ⑧ その他 (具体的に )

問3. 過去3年間で貴校に在籍した不登校生徒ならびに高校中退・既卒の卒業生の進路についてお答えください。

※ その他・・・未決定者を含む。

	不登校・高校中退・既卒の卒業生数	就職	進学	その他
平成17年度卒業				
平成16年度卒業				
平成15年度卒業				

問4. ニートやフリーターを出さないために、貴校が工夫している点を自由にご記入ください。


ご協力ありがとうございました

## 2. 調査結果・考察

問1 貴校に在籍する生徒数の内訳について、不登校生徒数ならびに高校中退・既卒の生徒数も含め、お答え下さい。

アンケート回答校は107校で、対象生徒数13,645人、不登校生は3,228人、高校中退・既卒の生徒数は394人であった。

高等専修学校における不登校生の割合は、全学年を通じて、23.7%程度を推移している。学年別にみると、1年生で25.3%、2年生で23.0%、3年生で22.3%程度と学年を追う毎に、中学校までの不登校割合は増加傾向にあるといえる。

ちなみに、平成16年度に同種の調査をしているが、不登校生徒の割合は19%程度であり、増加傾向にあることがうかがえる。

また、学校毎にみても、不登校生の割合が90%を超える学校もあれば、数%の学校も存在し、学校の教育内容、方針により、非常に違いがあることがわかる。

既卒生徒、高校中退者の受け入れ状況をみると、全学年を通じて2.8%であり、学年別でみると、1年生で2.3%、2年生で3.1%、3年生で3.4%である。今後、既卒生徒、高校中退者の受け入れも増加することが予想される。

不登校生徒に関しては、全国統計では改善傾向が報告されているが、高等専修学校においては、不登校生徒の割合は増加傾向にあり、各学校において、不登校生徒に関して、様々な形で指導、支援を行っている現状がうかがえる。

具体的な方法に関しては、今回アンケートしていないが、実態として、スクールカウンセラーの配置、職員におけるカウンセリングマインドの育成など、個々の生徒への指導に関するものに重きを置くと共に、行事などに関しても、楽しみながら学ぶ、コミュニケーション能力の育成などについて工夫を凝らしている学校が多いものと推測される。

また、本協会では、教職員の資質向上を目的とした研修事業の一環として、平成15年から4年にわたり、スクールカウンセリングをテーマにした、「カウンセリング講習会」入門、基礎、応用編を実施した。平成19年1月に、全課程を修了した者は「カウンセリングマインダー」として認定され、現在教育現場で活躍している。

その一方で、各地域によって差異はあるものの、行政における不登校対策に関して、高等専修学校の役割が明確でないところもあり、今後、高等専修学校の活動、教育内容をより一層周知して、施策への反映が望まれている。

全 学 年			第 1 学 年			第 2 学 年			第 3 学 年		
生徒数	不登校	既卒	生徒数	不登校	既卒	生徒数	不登校	既卒	生徒数	不登校	既卒
13,645	3,228	394	4,992	1,263	113	4,561	1,050	140	4,092	915	141
	23.7%	2.8%		25.3%	2.3%		23.0%	3.1%		22.3%	3.4%

問2 ニート、フリーターにならない為の教育として、どのような対応をされているのか、次の中から選び○を付けてください。

アンケートの回答校数は107校で、複数回答を可としている。

各学校で、ニート、フリーターにならないための指導、対応に関して設問されており、教育内容を検証してみると、⑥「個別指導」が圧倒的に多く、全体の78.5%となっており、また、家庭訪問等の⑤「訪問指導」が23.4%の割合で取り組まれており、家庭を含めた個別的な指導が重要視されていることがわかり、それぞれの進捗に併せた学習指導体制を確立していることがうかがわれる。高等専修学校においては、全体、集団指導もさることながら、個別対応が非常に重要な要素となっている現状といえよう。

また、③「スクールカウンセリング」は24.3%、④「キャリアカウンセリング」は18.7%の学校が積極的に取り組んでおり、カウンセリングに関して、さまざまな角度から、強化してきている実態が浮かび上がる。カウンセリングに関しては、専門職員を配置しているところもあるが、どちらかというところ、全教職員が協力して指導に当たることや職員それぞれがカウンセリングマインドを育成して指導に役立てている。いずれにせよ、生徒個々の特性、適性を十分に把握し、将来に備えての指導をしっかりと行っていることがうかがえる。

職業教育の観点から見ると、①「インターンシップ(職業体験)」は26.2%で、実習など現場に直結した教育プログラムの構築に力を入れているところが増加傾向にあり、実学的な教育取り組みが推測される。

⑦具体的な職業支援に関しては、18.7%の学校が積極的に取り組み、具体的なものとしては、1年次からの進路指導への取り組み、生徒への職業意識の啓蒙、企業見学などへの取り組みが多く見られる。また、授業の中で、賃金格差、生涯賃金、保険、税金など社会で生きるための常識、知識の修得に力を入れている学校もある。また、専門科目における資格取得が、職業に如何に活用されるかについて、授業などを通じて指導していることがあげられる。

今後とも一層工夫して、実践的な職業教育の構築がなされよう。

また、②「e-learning(遠隔教育)」に関しては、実施している学校は2.8%とわずかである。通信教育の分野とは違った教育目標設定をしている学校が多いことが推察される。コミュニケーションを大切に、面と向かった実践的な人間教育が施されていることがうかがわれる。

回答校数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
107	28	3	26	20	25	84	20	24
	26.2%	2.8%	24.3%	18.7%	23.4%	78.5%	18.7%	22.5%

※複数回答可



問3 過去3年間で貴校に在籍した不登校生徒ならびに高校中退・既卒の卒業生の進路についてお答え下さい。

過去年間の対象生徒数は4,314人で、就職が1,462人、進学が2,085人、その他が767人であった。

不登校生、高校中退者、既卒者を対象とした進路状況に関しては、82%を越える生徒が、進学若しくは就職をしており、フリーター、ニートになっている割合は少ないと推測される。

具体的な数値でみると、就職者が、平成17年度37.2%、平成16年度33.5%、平成15年度30.7%となっており、年々就職は向上していることがうかがえ、3年間平均で、33.8%となっている。

進学に関してみれば、平成17年度47.0%、平成16年度50.0%、平成15年度48.0%となっており、3年間平均で48.3%と50%に迫る勢いで推移しており、より一層専門的な技術、技能に興味を持つ生徒が増えていることがうかがえる。

進路指導全体に関してみると、生徒個々に対して個別的な指導を心がけていることは当然として、本人の希望もさることながら、適性を見極め、就職、進学に対応している現状がうかがえる。

その他項目に関してみれば、平成15年度は21.3%であったものが、平成16年度16.5%、平成17年度には15.8%となっており、明らかな改善傾向が見受けられる。ニート、フリーター対策を各学校で取り組んでいる証左といえよう。

進路に関してみると、就職が平均で、33.8%、進学が48.3%であり、一層高度な専門教育に興味を持つ生徒が増えていることがうかがえる。高等専修学校の学習内容に関してもこれらの現状を踏まえて取り組んでいく必要がある。

進路全体に関して、職業観の育成、職業教育の充実が図られると共に、専門性が高まってきており、進学者が増える傾向にある一方で、ニート、フリーターにしないための各学校での努力の成果が発揮されてきていることがうかがわれる。

不登校・既卒等の生徒数			平成17年度			平成16年度			平成15年度		
17年	16年	15年	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他
1,515	1,433	1,366	563	712	240	480	717	236	419	656	291
合計：4,314人			37.2%	47.0%	15.8%	33.5%	50.0%	16.5%	30.7%	48.0%	21.3%

問4. ニートやフリーターを出さないために、貴校が工夫している点を自由にご記入ください。

アンケート回答校・・・107校  
記述のあった学校・・・80校  
無回答・・・・・・・・・・27校

《記述内容》

- 技術や知識を教えると共にまず一人の確かな人間性を育て、周りの人間関係にスムーズに入っていける協調性やコミュニケーション力を育てることにあります。また、担任・副担任がつき、きめ細かい指導を行っていることから、生徒一人ひとりの顔が見えるよう行っております。
- 社会性を身につけ、勤労意欲の定着を図るため学校行事等への積極的な参加を促し、個々の生徒に役割を与え、責任を持たせ、達成感を体感できるよう取り組んでいる。また、保護者への働きかけを進路説明会・三者面談等を通して行い、保護者の意識改革をはかり、保護者・教員が本人の自立に向けて連携を密にし、卒業までに進路未決定者を出さない取り組みをしている。
- 本校では、1年生からの意識付けとして、資格取得のための講習を受講させ、3年間で10個以上の取得を目標とさせています。将来、資格社会で生きていく重要性を教えると同時に、自信をつけることもまた目的としています。
- 芸術系を目指す生徒が多いので、学校でのオーディション情報の提供および学校でのオーディション実施等、在学中よりプロダクションに所属できる機会を与えている。
- ニート・フリーターを進路の方向性として認めない進路指導（進路決定100%）。職業教育、人間教育に重きをおいて生きる力を育てる教育。予防教育に力を入れた生徒指導。  
※本年度、本校は文部科学省委託事業の中の「専修学校におけるNPO団体等と連携したニートに対する職業教育支援事業」に参加希望を出している。
- 「礼儀正しく、美しく」を校訓として指導しています。
- 検定、資格取得などに挑戦させ、個々の目標を持たせるようにしている。
- 日々の授業、道徳、集会での講話等において、人間の生き方を指導し、「人間力」（自らの個性を生かし、生きていく力）を身につけさせる。また、「自らの手で生きる楽しさ」を指導。
- 1. 生徒と教師との1対1の対話。  
2. 毎日の出席状態、欠席者には電話連絡を欠かさない。  
3. 生徒と保護者との懇談を密に行っている。
- 看護職者養成学校であり、目的意識をもち入学してくる学生なので、ほぼ全員が就業し

ているので、特に工夫をしていない。ただし、就業については学生からの相談にのり、希望する職場で働くことができるようにアドバイスしている。（離職をできるだけ防止するため）

- 通常の教育活動の中で各個人とのコミュニケーションを十分とりつつ、学力を身につけて、主に大学に進学させている。
- まず、就職しやすい専門課程への学内進学を指導する。就職希望の生徒については、担当者による求人先企業の紹介等、個別指導と企業への採用の働きかけを行う。
- 話す機会を多く持つようにしています。
- できる限りにおいて全員（就職希望者）に進路指導の中でニートやフリーターの現状を伝達し、正規の形できちりと進路保障をしてあげられるように全力で努力をしている。今現在のニートやフリーターがどんな生活をしているのか、本当に自分もこんな形でよいのか等について3年生だけではなく全学年の生徒を対象として話し合いが持てる機会を作り、そこで討論しあえるようにしています。
- 入学前に体験学習を実施し、目標をしっかり持たせる。また実学教育機関として、資格を取得させることによって自信を持たせ、1年生より将来の目標を持たせるための進路指導を徹底している。実習においては、基礎学習、漢字学習、百マス計算、一般常識等を毎日ホームルームで実施し、集中力を身につけさせるとともに、学習に対する意欲と関心を高めている。
- 夏季休業中にアルバイト  
自動車学校に入校  
日常実践を大事にする  
教育目標 1. 腰骨を立てる 2. 清掃を本気とする  
3. 挨拶を人より先に。毎朝朗誦。
- 基礎学力、技能の個人差が大きく、進度の差が生じるが、個別指導で対応しております。また、長期休業時に補習を実施して提出物の解消をし、時間数の不足を補っています。簿記検定、電卓検定、ワープロ検定などの資格検定を受けさせる。進路についても、専門学校への進学をすすめ、専門士の資格を取得させることをすすめている。
- 1年生のときから早期に就職に対する意識付けを行う。
- CHR、集会等を通じ、進路指導部作成の資料を活用している。
- 本校では、専門課程があるためしっかりした技術を身につけるため進学をすすめています。
- 基礎学力を身につけさせ、そのことで自信を取り戻すことを目指している。そのために朝学習日課を設定し・朝学習での反復練習をさせる。また、土曜日を活用し学力向上のための学習を行っている。  
インターンシップを実施し、職業に関する知識・学習を深めさせる。本苦小牧では苦小牧市（行政）・企業・高校生が一体になって商品の企画から販売までを行うプロジェ

クト型インターンシップという新しい形のインターンシップを昨年から実施しており本校でも76名の生徒が参加した。

カウンセリングルームを設置してカウンセラーを常駐し、不登校やいじめ、対人関係、進路等の心のケアに対応するよう努めている。

○キャリアコンサルタントの導入

○進路指導、生活指導に関して、年間を通して、個別面談、保護者面談、三者面談を頻繁に行い、生徒一人ひとりに適したアドバイスをするよう心掛けている。

○自身のスキルアップや老後のボランティア活動のため調理の技術を身につけたいとする者以外は就業意欲のあるものばかりであり、在学中にその意識をより高めるように技術知識の付与に努めている。

○1人ひとりの個性を大切に高等専修学校で学ぶ目的をしっかりと意識させ、自分の将来の姿をイメージさせる。授業の他の行事にも力を入れ学校生活が充実して楽しい場所にするよう配慮する。専門教科は基礎をしっかりとマスターさせ達成感を味わいながら実力をつけ自尊心を持てる様にして学んだことを生かして就職、日常生活に役立てさせる。

○本校の生徒のほぼ100%は上級学校へ進学するが、進学先で休学、退学してしまうケースも目立っている。自分の将来像と進学先の不一致(十分進学先を検討しないまま進学したために現実との間にズレがあったなど)や、ついていくことができなかつたなど、この点を十分に踏まえたうえでの進路指導にポイントをおいている。

○就業体験の実施。

「生活産業基礎」教科書を使って、職業意識を啓発。

作品製作を通して、「目標達成の喜び」「自信」「根気強さ」等を培う。

○年2回の保護者面談

3年次での週1時間の進路指導

キャリアサポートセンターの校内常設

入学時より個々の目標の確認、設定、変更を常時実施

○職業意識を持たせる。

○入学試験前の体験実習から車への興味関心をさらに持てるような実習展開の実施。学年が進むにつれ、三級自動車整備士の資格取得の授業が新たに始まることで、一気に就職への意識が高まり、授業の中での職員の的確な助言及び体験談等で徐々に進路、就職に対しての意識付けを行う。

○1年次より専門学校の体験授業を受けさせて進路への意識付けをしている。

工夫ということではないが、1年生から三者面談を行い、進路への意識付けを行うようにしている。

○高等課程、専門課程を通じ、長期的に本人と関わり、成長するきっかけ作りに協力する。

具体的には、学校行事やコンテスト、イベント、検定試験等の取り組みから、自信意欲

を引き出し、よい結果から次のステージに上がるエネルギーを蓄えられるよう見守る。  
親とは密に連絡を取りあい、本人の現状を理解させ、協力を得る。

- 本人や親との面談を重ね、納得のいく進路を選ばせるように努力している。また、職場見学は必ずさせてから試験を受けさせている。
- 入学時から、美容師としての就業意識を持たせるため、就職フェアへの参加、先輩の体験談を聞かせるなどの施策を行っている。
- 全教職員が協力して、進路指導を実施している。  
年度の早い時期から進路を意識させ、職場体験やカウンセリング等を実施している。
- 進学、就職に向けての話をできる限り時間を取り、話し合うようにしている。
- 学生の就職へのモチベーションをアップさせるために、就職ガイダンスやビジネス対策を実施しています。また、就職後のミスマッチを防ぐために、やる気のある学生には、卒業生訪問で、実際に現場で活躍している先輩方の声を聞くことができるようサポートしています。
- 道徳の授業において、職に就くことの大切さを、ニート・フリーターの社会的地位・権利等を勉強させながら、進路指導を含めて指導している。また、ハローワーク主催の就職ガイダンス等に積極的に参加させている。
- 会話を密にしてよく話をし、話題を作る。無理に登校を強制しない。特に親との信頼関係にも力を入れる。親の安心があると子供も、落ち着いた気持ちになってくる。
- 人生計画におけるニート・フリーターの立場について理解できるように、先輩の経験やデータをもとに、話し合うなど、意識づける。仕事についても”やれるかもしれない””失敗するかもしれない””自分にあっているかどうか決心がつかない””自由な立場で働く方が、気持が楽”など本校のフリーター志向の回答である。校外実習に出た後などに充分話し合いの場を設けている。
- 出席状態の自己確認（遅刻・欠席の日を自分で回数チェックさせる。）  
学期末試験の受験資格  
生徒達一人ひとりに役割（仕事）をあたえる。  
一年次よりの仕事についての HR 指導。
- 毎日、学校に登校することが、当たり前という、大人の社会に向けての指導をしている。毎日、遅刻もしない。そうじ、あいさつ、返事、ノートのチェック、すべて学校のルール、ペースを基本として、当たり前を身につけさせている。生徒の気持ちに合わせての(よく目線にさげて)指導は、15歳までと位置づけ、自己中心は、許さないという徹底指導をしている。（※目線に合わせての指導をすることはニート増加につながると私どもは考えます。）  
1年次から進路指導主任を中心に、3年間を見越した進路指導計画を立て、実践している。特に、2,3年次、企業見学後、実習等をお願いし、生徒自信の職業意識を高めるとともに、企業側のニーズにあった生徒であるか見てもらうようにしている。

- 資格を取得し、正社員として社会に出て行くことの有利性を考えさせ、10年後それ以上の自分の姿をHR等で考えさせている。  
卒業生と連絡を取り、生の話を紹介している。  
具体的な賃金格差を授業・HRでシュミレートさせている。
- 苦手克服よりも得意を伸ばし、自信を持たせ、スペシャリストを目指させる。
- 就職先がなかなかしぼれなかった者については、本校の専門課程をはじめ姉妹校の専門課程への進学を強力に勧めている。
- 目的意識を持った学生のみ入学のため、特に工夫はなく、専門教育をすること以外ありません。
- 本校には不登校であった生徒がたくさん入学してきているので、全職員がその実態のもとに対応している。不登校が改まって皆勤の生徒も何名か出て、立派に自立、就職している。不登校の中でニートになりやすいのは怠学生徒であることが多い。
- もともと殆どの生徒が進学するため、ニート、フリーターを出さないために何かするということはございません。
- ニート・フリーター対策以前に、中学から不登校だった生徒も多いため、まずは人と関わることを第一に考えている。年一回、全校生徒によるファッションショーを行っており、自作の服で本人がモデルとなる。技術向上の励みだけでなく、上級生、下級生との交流を通して、協調性を養い、またそれぞれが個性を生かした作品を発表し自信をつけることで、3年間の在学期間で社会に適応できる人間育成を目指している。
- 総合学習やLHRを利用して、職業教育や将来の生活について考えさせる時間を徹底させている。
- 1人ひとりに自信を持たせ、やりたい事がわからないというニート・フリーターとなる原因を防ぐ。その一つとして、さまざまな資格検定への挑戦、そして特色ある日々の技術面の学習の中より自分の職業生活の適性を見つけ出させる。また、入学当初より、学校生活の中で、マナーや風紀に関して厳しく注意し、欠席、遅刻に重点をおき「休まない」指導。この現象がニートを防ぐのではないか。日々積み重ねと実践。
- 理容師、美容師の職業についての有利点等の説明をしております。また、学生には個々にきめ細かい指導が出来るように心がけております。
- 理美容関係に全員就職するので特別に何もしていない。
- 教職員が交代で研修に行き、個々の話を聞ける様にする。
- 職業意識を高めるために在学中のアルバイトを許可している(学費のためにアルバイトをしている生徒もいるが・・・)。また、社会人となるためのルール・マナーを身につけるよう学校生活において細かく指導している。(挨拶、身だしなみ、言葉遣い,etc)
- ボランティア活動を教師が共に実践。
- 就職の徹底斡旋指導。  
卒業生で就職未定者および離職者に対しての求人情報の提供。

- 就職に対しての意識の改革。キャリアコンサルティングの授業（外部講師による自己啓発、コミュニケーションの心得）。就職支援（履歴書作成、面接指導等）。
- 外部講師を定期的に招いて講演会を催している。
- 本校では、欠席が続き始めると家庭訪問を行い、放課後等を利用して登校させたり、課題の提出により評価をする。また、生徒の個性からアルバイトの斡旋や、カウンセリングに行かせるなど、大学の教授をスーパーバイザーとして指導にあたっている。
- 選択講座やクラブ活動に技術修得を目指すものを多く取り入れ、技術を持って自身を持たせる。
- 自動車整備を目指す職業教育に徹し、カードクターを授業の職業像として描かせる意識を持たせることに徹し、整備士関係資格、危険物取扱い、溶接等の資格を取得する学習を重ねる目標を明確にして、一人ひとりの自覚を深める指導を重点とし国家整備士合格率 94.8%の結果を残しています。
- 進路を決定する際に担任、進路課が協力して個別指導をしています。また、年末（12月）までに進路未決定の生徒については保護者も交えて学年部面談をしています。
- 「自己実現カード」を活用し、一年次から自らの進路に対する意識を高める指導をしている。
- 自動車整備士の学校なので、実習をとおして各自、進路を自然に決めている。  
ニート・フリーターはおりません。
- 専修学校なのでまず職業教育を主眼とし、社会に出てもがんばる精神を養っています。現況は大学や専門課程に進学を希望するも、経済的な理由で、高等課程を卒業後、アルバイトで資金を確保してから進学する者もいます。また就職希望者には、本人の適性に合った就職先を斡旋し、ニートやフリーターを出さないよう指導しています。
- 服飾分野はどうしても一人前になるのに年数がかかるのと、高校（高等課程）だけでは本人の希望の職種になれないので、本校では専門課程に進学し少なくとも2年以上勉強すれば夢に近づけるのでニートは0に等しい。
- 学校の教育理念として「勤労を尊ぶ」ことを常に教えており、学校生活、行事（奉仕活動など）で実践している。  
市の行事のごみボランティアにも全校で参加し、働く意義・意識の高揚に努めている。  
進路指導の充実に努めている。
- 3年生の授業において、職業指導、就職対策の授業を各1単位ずつ実施し、職業と適性、職業と資格、検定等について指導。実際の就職試験突破を目指し、具体的な一般常識的な授業を実施し、勤労の大切さなどをきめ細かく指導している。
- フリーターは、「不利多一」であることを感で含めるが如く淳々と説く。
- 1対1の指導に全力をかけています。
- 1年次から、定期的に進路説明会を実施し、職業意識を植え付ける（その際、生涯賃金、保険等の資料を配布・説明。）。在学中に、欠席が多くならないように、本人および保

護者との連絡も密にとること。

- あまり、多くのことを要求しない。最低のラインを決めて、それ以外は各自に任せる。
- 生徒本人に自信とやる気を持たせるため、専門の技術習得で将来自立するための各種検定資格の取得に全力をあげています。また卒業後に定期的に学校訪問をしてもらい、現況について話し合う場を設けています。
- 基本的な生活習慣を重要視した生徒指導。規律を守ること。社会に適応する態度の育成指導。コミュニケーション能力を高める指導。
- 職業教育の徹底。

上記の記述より、主なものを整理すると次のようになる。

- ・ きめ細かい生徒指導（基本的な生活習慣・個別指導の充実・コミュニケーション能力の向上）
- ・ 勤労意欲の定着を図るための学校行事への積極的参加
- ・ 保護者との連携（信頼関係の構築）
- ・ 資格取得
- ・ 進路未決定者を出さない指導
- ・ 職業教育及び人間教育
- ・ 全教職員で取り組む進路指導
- ・ 進路説明会
- ・ 学内進学指導
- ・ ニート及びフリーターに対する正しい認識を持たせる
- ・ 社会人としてのマナー研修
- ・ インターンシップの実施  
※プロジェクト型インターンシップ（行政・企業・生徒（学校））
- ・ カウンセリングの充実
- ・ 体験談、講話、卒業生の勤務している職場訪問等
- ・ 外部で行われている就職ガイダンスへの参加
- ・ アルバイトの勧め
- ・ ボランティア活動
- ・ キャリアコンサルティング
- ・ 勤労観、職業観の育成

高等専修学校ならではの職業教育と人間教育の利点を生かし、生徒一人ひとりを大切に育てているところが工夫点として記述されている。不登校生徒、高校中退・既卒の生徒を積極的に受け入れている高等専修学校であるからこそ、個別対応・面談をはじめとして、生徒一人ひとりに対する対応を全教職員で取り組んでいる様子を読みとれる。在学期間の



中で技能を磨き、各種検定資格に挑戦し自信を獲得させ、さらには将来を見据えた進路設計を構築させて卒業後の進路を確かなものとしているのである。

次に、ニート、フリーター問題に関しては、社会生活・雇用形態・賃金・福利厚生等をはじめとして様々な観点でシミュレーションし正しい認識を持たせる工夫がなされており、そうならないように各校進路指導の中で、上記で記述した工夫点が掲げられている。

また、専門学科を通しての職業教育に止まらず、学校行事・インターンシップ・ボランティア活動等体験的学習活動を多く取り入れて、机上の学習だけでは得られない自信を獲得させていることも特徴と言える。

上記より、高等専修学校は職業教育、人間教育はもとより、学校生活のありとあらゆる生徒の活動が職業観の育成へと繋がっており、全ての教職員が生徒一人ひとりを確実にサポートしている体制が整っている理想的な学校ではないだろうか。

尚、特別なことはないという記述や無回答については、それらのほとんどは調理師系や理容美容系が多く、卒業後の明確な職業があることを前提としている職業教育であるが故の記述や無回答と考えている。

## 第2章 生徒用アンケート調査

# 1. 調査内容

## 高等専修学校で学ぶ生徒の皆さんにアンケート調査のお願い

高等専修学校で学んでいる生徒の皆さんの今の気持ちを聞かせていただきたい思い、アンケートをお願いいたしました。無記名ですので、個人が特定されることはありません。質問の中に答えにくいことがある場合は、無理にお答えいただくことはありませんので、無記入でかまいません。どうぞ協力をよろしくお願いいたします。

### 生徒アンケート

学年 ( ) 性別 ( )

問1. 次のA, B, Cの質問に当てはまる方のみお答え下さい。(複数回答可 あてはまるものはすべて○をして下さい。)

A. 過去に「学校に行かなかった、行けなかった」経験のある方に質問です。いつ頃から学校に行かなくなったか、あるいは行けなくなったかをお答え下さい。

- ① 小学校 ( 1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 6年生 )  
② 中学校 ( 1年生 2年生 3年生 ) ③ 高校 ( 1年生 2年生 3年生 )

B. 高校を中途退学した方に質問です。中途退学した理由をお答え下さい。

- ① 学校に行きたくなくなった、行けなくなった。 ② 学校の先生と合わなかった。  
③ 学校の雰囲気が馴染めなかった。 ④ 友達関係でつまずいた。  
⑤ 教育内容に興味を持てなかった。 ⑥ 勉強についていけなくなった。 ⑦ いじめを受けた。  
⑧ 校則が合わなかった。 ⑨ 問題行動があった。

⑩ その他(具体的に )

C. 中学卒業後、進学をしなかった方に質問です。理由をお答え下さい。

- ① 就職した。 ② 病気のため。 ③ 何もしたくなかった。 ④ 目標が無かった。  
⑤ 就職しようとしたが就職できなかった。  
⑥ その他(具体的に )

問2. 高等専修学校に入学した動機をお答え下さい。

- ① 中学校の進路担当の先生に勧められた。 ② クラス担任の先生に勧められた。  
③ 家族や親戚に勧められた。 ④ 同級生や友人に勧められた。 ⑤ 学校の先輩に勧められた。  
⑥ 自分で決めた。

(決めたきっかけは 新聞 ・ ポスター、看板 ・ 受験雑誌の進学説明会 ・ インターネット)

⑦ その他(具体的に )

問3. 現在の状況についてお答え下さい(はい または いいえ に○をして下さい。)

- ① 学校には、登校していますか はい ・ いいえ  
② 目標は見つかりましたか。 はい ・ いいえ  
③ 生活は良い方向に変わりましたか。 はい ・ いいえ  
④ 友達や仲間ができましたか。 はい ・ いいえ

問4. 将来の目標についてお答え下さい。

- ① 就職したい。(具体的にどんな仕事ですか。 )  
② 進学したい。 大学 ・ 短大 ・ 専門学校 その他 ( )

問5. 高等専修学校に入学してあなたは中学校時代と比べて変わったと思いますか。自由にご記入ください。


ご協力ありがとうございました

## 2. 調査結果・考察

今回の調査では、複数回答を可として総数6, 360人より回答が得られた。

内訳は、学年別では1年で2, 271人(35.7%)、2年で2, 179人(34.3%)、3年以上で1, 910人(30.0%)であった。又、男女別では男で3, 343人(52.6%)、女で3, 017人(47.4%)であった。学年別、男女比では大きな差はなかった。

問1. 次のA, B, Cの質問に当てはまる方のみお答えください。(複数回答可)

この調査では(A)不登校経験者、(B)高校中途退学者、(C)高校進学をしなかった過年度卒業生へ回答を求めた。

A. 過去に「学校に行かなかった、行けなかった」経験のある方に質問です。いつ頃から学校に行かなくなったか、あるいは行けなくなったかをお答え下さい。

問1 A											
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
78	72	138	175	250	252	682	979	784	234	113	41

今回は小学校から高校までの12年間での調査であるが各学年に経験者がおり小学校高学年から中学2年まではその数が増加している。

内訳は小学校が1年から78人、72人、138人、175人、250人、252人、中学生が1年682人、2年979人、3年784人となっており、高校入学後も234人、113人、41人となっている。

回答総数6, 360人に対する比率では、小4より2.8%、3.9%、4.0%で、中学では10.7%、15.4%、12.3%となっており、高校入学後でも1年で3.7%、2年でも1.8%もの不登校者が在籍している結果となっている。

問1 A 複数回答の内訳												
0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個	8個	9個	10個	11個	12個
4,155	1,439	374	190	92	43	35	18	7	6	0	0	1

複数回答を可としているため、1学年だけの不登校者は1, 439人(22.6%)、2学年374人(5.9%)、3学年以上392人(6.2%)、合計2, 205人(34.7%)の結果になっており、中でも5年以上の経験者110人(1.7%)も入学してがんばっている。

B. 高校を中途退学した方に質問です。中途退学をした理由をお答え下さい。

問1 B									
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
82	66	50	41	74	54	27	79	65	80

今回の調査では388人(6.1%)の生徒が中退者と回答している。質問の回答で多かったのは、388人中で

① 学校に行きたくなかった、行けなくなった。	(82人 21.1%)
⑧ 校則が合わなかった。	(79人 20.4%)
⑤ 教育内容に興味を持てなかった。	(74人 19.1%)
② 学校の先生と合わなかった。	(66人 17.0%)
⑨ 問題行動があった。	(65人 16.8%)
⑥ 勉強についていけなくなった。	(54人 13.9%)
③ 学校の雰囲気馴染めなかった。	(50人 12.9%)
④ 友達関係でつまずいた。	(41人 10.6%)
⑦ いじめを受けた。	(27人 7.0%)
⑩ その他	(80人 20.5%)

となっており9回答のうち8回答で10%を超えており、学業成績だけの理由ではないことがわかる。又、最近のニュースで多い「いじめ」を退学理由にしたのは⑦27人の7.0%にしかになっていない。

⑩ その他の記述回答80人でも半分以上が上記に該当しており残りの主だった回答でも、「遊んでいた」、「めんどろだった」、「つまらない」、「だるい」、「やる気にならない」、「起きることができなかった」等、怠学傾向の回答が24人(6.2%)と多かった。少数意見ではあるが、「親との相談の結果、現在の学校に行くために一年間だけ普通の高校に在学した」、「授業料が高かった」、「スポーツ推薦入学だったが、部活が合わず、部活も学校にも行かなくなり、問題を起こした」、「顧問が嫌い」、「バイトに熱中」、「留学したかった」、「料理の道を目指すため」等、高校選択での失敗が見えている。

問1 B 複数回答の内訳										
0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個	8個	9個	10個
5,972	262	70	33	11	6	2	1	3	0	0

この回答も複数回答を可としているため、2個回答者が70人(18.0%)、3個以上が56人(14.4%)と合計126人(32.5%)であり、退学理由も単純ではないようである。

C. 中学卒業後、進学をしなかった方に質問です。理由をお答え下さい。

問1 C					
①	②	③	④	⑤	⑥
33	13	33	38	4	51

中学卒業後に進学をせず、現在高等専修学校で学んでいる過年度卒者への質問である。

回答者は159人(2.5%)の生徒が過年度卒者と回答している。質問の回答で多かったのは159人中

- ④ 目標が無かった 38人 23.9%
- ③ 何もしたくなかった 33人 20.8%
- ① 就職した 33人 20.8%

となっており、④と③を加えると71人(44.7%)にもなっている。中学校での進路指導に答えられなかった生徒と考えられる。

② 病気のため13人(8.1%)、⑤就職しようとしたが就職できなかったは4人(2.5%)と少数となっている。

⑥ その他の回答では夢を持って目標に進んでいる生徒が目についた。例えば、「スケートに集中」、「バイトに集中」、「北海道に行きたい」と現実が見えない状態が見え隠れしている。

(B) 高校中退者388人(6.1%)と(C)の未進学者159人(2.5%)が過年度入学者となりその合計は547人(8.6%)となり、そのほとんどが(A)の不登校経験者2,205人(34.7%)に含まれる結果になっている。

今回の調査により高等専修学校が不登校経験者への新しい進路となっている結果となった。

問 2 高等専修学校に入学した動機をお答え下さい。

総回答数は6,227人となる。内訳は①の「中学校の進路担当の先生に勧められた。」が1,007人(16.1%)。②の「クラス担任の先生に勧められた。」が1,956人(31.4%)。③の「家族や親戚に勧められた。」が1,000人(16.0%)。④の「同級生や友人に勧められた。」が202人(3.2%)。⑤の「学校の先輩に勧められた。」が86人(1.4%)。⑥の「自分で決めた。」が1,976人(31.7%)。

上記の結果を踏まえると、①と②の比率が全体の半数近くを占め、高等専修学校は、クラス担任及び進路部からの支持が高く、中学校から認められている結果であると考えられる。また、⑥の自分自身で見つけて決定した比率が一番高いので、高等専修学校は中退率が低い要因となっていると考えられる。また、⑦「その他」の具体的な回答では、資格を取得したいから、自分の好きな分野なので、体験入学に参加したから、学校のパンフレットを見て決めた、将来の夢を実現するため、兄弟が通学していたため、等という積極的な理由の回答が目立った。

問 2					
①	②	③	④	⑤	⑥
1,007	1,956	1,000	202	86	1,976

問 3 現在の状況についてお答え下さい。

①「学校には登校していますか。」の問に対して「はい」と回答した生徒は6,202人(98.9%)で「いいえ」と回答した生徒は67人(1.1%)。②「目標は見つかりましたか。」の問に対して「はい」と回答した生徒は3,864人(62.9%)で「いいえ」と回答した生徒は2,275人(37.1%)。③「生活は良い方向に変わりましたか。」の問に対して「はい」と回答した生徒は4,554人(75.6%)で「いいえ」と回答した生徒は1,466人(24.4%)。④「友達や仲間ができましたか。」の問に対して「はい」と回答した生徒は5,799人(94.4%)で「いいえ」と回答した生徒は342人(5.6%)。

総体的に見ると、高等専修学校入学後は、目標を見つけ前向きに進んでいる生徒が増えている事がわかる。①の回答についてはほぼ100%近くの生徒が学校に登校しており、伏線として④の回答にそれが表れていると思われる。高等専修学校の存在意義が見える結果となっている。

問 3							
①		②		③		④	
はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
6,202	67	3,864	2,275	4,554	1,466	5,799	342

問4 将来の目標についてお答え下さい。

総回答数は5,663人で、そのうち①「就職したい。」に関しては2,740人で総回答数の48.4%と半数近くを占める。②「進学したい。」では大学が612人。短大が268人で。専門学校が1,581人。その他が462人となる。就職希望が約半分と多くの割合を占め、高等専修学校は職業教育を軸とした人材育成に貢献していると言える。進学希望で職業を意識した専門学校への進学希望の割合(27.9%)も高く、高等専修学校の職業教育が生徒へ浸透していると言える。

①「就職したい」の「具体的にどんな仕事ですか」の設問については、調理師、建設業、自動車整備士、ITパソコン系、介護福祉関係、デザイナー、美容師、理容師、パティシエ、エステティシャン、看護師、ファッション関係、保育士、アニメ、簿記を活かした事務職、トリマー、音楽関係など多彩な職業分野の回答が寄せられた。いずれも高等専修学校で学んだ専門分野を、具体的に就職希望として書いている回答が大半であった。

また、「その他」では、まだ決めていない、が最も多く、次いで大学か専門学校のいずれかに進学、という回答が多かった。なお、以下少数ながら、留学したい、ヘルパーの資格を取りたい、プロの漫画家になりたい、などの回答が散見された。

問 4				
①	②			
	大学	短大	専門学校	その他
2,740	612	268	1,581	462



問5. 高等専修学校に入学してあなたは中学校時代と比べて変わったと思いますか。  
自由にご記入ください。

- ・何らかの記述をした全回答数は、・・・・・・・・・・ 3, 239人 (A)
- ・どの様に変ったかわからない回答、例えば、「変わった」、「思う」、「生活面」、「環境」「考え方」とだけという回答数は、・・・・・・・・・・ 188人 (B)
- ・その他の回答、例えば、「わからない」、「にきびが増えた」、「めがねをかけた」、「通学距離が長くなった」というように、問いの趣旨より対象から外さざるを得なかった回答数は、・・・・・・・・・・ 62人 (C)

アンケートに答えてくれた生徒の様々な思いは個性豊かで自由に記述されており、実に多様である。そこで、文章の中の内容を基本的で簡単な表現を用いて分類すると次のようになる。破線内はプラス指向面であり、( )内の数字は全回答文の中で該当した生徒数であり、また、%は全回答数3, 239人に対する割合である。したがって例えば、ある生徒が「行動が積極的になり、明るく楽しくなった」と答えた場合、①と②の両方においてカウントされている。この生徒は、「積極的になった」と答えた1名の生徒であり、また、「明るく楽しくなった」と答えた1名の生徒でもあることになる。

① 積極的になった。	(1, 062人 32.8%)
② 明るく楽しくなった。	(662人 20.4%)
③ 生活態度が良くなった。	(596人 18.4%)
④ 友達ができた(増えた)。	(486人 15.0%)
⑤ 勉強をするようになった。	(370人 11.4%)
⑥ 目標(資格・専門分野)ができた。	(328人 10.1%)
⑦ 授業が充実してきた。	(87人 2.7%)
⑧ いじめとかが無くなった。	(54人 1.7%)
⑨ 良くなった。	(33人 1.0%)
⑩ 部活に励むようになった。	(31人 1.0%)
⑪ 校則が厳しいと感じるようになった。	(13人 0.4%)
⑫ 進学を考えるようになった。	(8人 0.2%)
⑬ 変わらない。	(244人 7.5%)
⑭ 中学時代の方が良かった。	(105人 3.2%)

尚、①の「積極的になった」のように広い意味のある基本文には、分類のため次のような点も考慮した。

①「積極的になった」には次のような記述を含めた。

- ・ 自分の考えが言えるようになった。
  - ・ 相手の気持ちが理解できるようになった。
  - ・ 頑張る。
  - ・ 話ができるようになった。
  - ・ 前向きになった。
  - ・ 意欲がでてきた。
  - ・ 活発になった。
  - ・ 前より自分が好きになった。
  - ・ 大人になった。
  - ・ 精神的に強くなった。
  - ・ 努力するようになった。
  - ・ 視野が広がった。
  - ・ 自分らしくなった。
  - ・ 自分の将来を考えるようになった。
  - ・ クラスの係りに参加できるようになった。
  - ・ 感情が豊かになった。
  - ・ 向上心がついてきた。
  - ・ 集中できるようになった。
  - ・ やる気がでてきた。
  - ・ 責任感が強くなった。
  - ・ 根性がついた。
  - ・ 親に心配をかけなくなった。
- ③「生活態度が良くなった」には次のような記述を含めた。
- ・ 挨拶ができるようになった。
  - ・ 言葉遣いが良くなった。
  - ・ 礼儀正しくなった。
  - ・ まじめになった。
  - ・ 不登校がなくなった。
  - ・ 自分で早寝・早起きができるようになった。
  - ・ 忘れ物をしなくなった。
  - ・ 提出物が出せるようになった。
  - ・ けんかしなくなった。
- ⑥「目標（資格・専門分野）ができた」には次のような記述を含めた。
- ・ やりたいことが見つかった。専門に興味もてる。
- ⑦「授業が充実してきた」には次のような記述を含めた。
- ・ 設備が充実している。

- ・ 授業中寝なくなった。
- ・ ノートをとるようになった。

さて、①～⑫については、アンケート文において内容が該当する部分があればカウントしてあるので、合計数は回答数とは一致しない。

⑬・⑭については、アンケート文はいずれも短文であり、1回答1人としてカウントできた。よって、⑬と答えた生徒は244人、⑭と答えた生徒は105人である。

⑭と答えたマイナスの印象をもっている生徒は、全回答数に対して3.2%に該当する。

次に、何らかの記述をした全回答数(A)から、どのように変わったのか判別できない回答数(B)と、問いの趣旨から外れた回答数(C)を控除した2,989人の回答数(以下有効回答数とする)を前提に考えてみる。

いろんな面でプラスになったと答えた生徒は、2,989人から⑬・⑭の合計349人を控除した2,640人であり、有効回答数に対して88.3%に該当する。

さらに、どのように変わったかはわからないが、「変わった」等、記述のあった188人(B)をプラス的に推測した場合を含めると、89.0%の生徒が高等専修学校へ入学して自ら向上したという純粋な認識をもって学校生活を送っていることが明らかとなった。

もう一度、各文章全体の構図を見てみると、次のようになる。

目標ができ(やりたいことが見つかって)頑張ろうという意欲がわいてくる。自ら向上への軌道に乗せていく回復力が目覚めていく。そして、積極的にになり、生活態度が改善されてくる。大人になったと記述している生徒も多い。

友達ができると、学校生活が楽しくなるので、学校へ行けるようになる。また、相手のことを考えたり、自分から話しかけたり、自分の考えを言えるようになり、いろんな面で積極性が育まれていくことになる。それとともに、いままで親に心配をかけていたが、今親に感謝している、あるいは心配かけないように努力したいという記述に発展する心の動きがわかる。

自分の思っていることが言えるようになったとか、人の気持ちを考えられるようになったという記述も多い。自分の気持ちが言えるようになる環境とは、相手を理解し、自分も理解されていると思われる状況から生まれるものである。

問5の結びとして、このアンケートから高等専修学校には自分の目標(資格・専門分野)に向かって楽しく積極的に勉強することができる環境があり、また、人間教育の面からも生徒に活力をあたえていることが読み取れ、高等専修学校の教育には、真心を以って理を追究していく姿勢の正しさを確認できる。今後も一層、生徒一人ひとりの成長を励みに邁進していきたい。

## 第3章 総括

## まとめ

アンケート結果を、日本の抱える大きな問題である「ニート・フリーター」を出さない教育として、高等専修学校の職業教育が重要な役割を担っているのかどうかと言う点から、読み取って行くと、学校用アンケートの間1の考察結果からわかるように、高等専修学校における不登校生の割合は、全学年を通じて、23.7%程度を推移しており、学校によっては、不登校生の割合が90%を超える学校もあり、高等専修学校が不登校生の受け皿になっていることがわかる。

また、既卒生徒、高校中退者の受け入れ状況をみても、3%を超えて、今後、既卒生徒、高校中退者の受け入れも増加することが予想されることから、「ニート・フリーター」になる要素を抱えた生徒達が多く在籍していることがうかがえる。

そのような要素を抱えた生徒達に対して、「ニート・フリーター」にならないための指導をどのように工夫しているかが、学校用アンケートの間2の考察結果からわかる。

高等専修学校においては、全体、集団指導もさることながら、個別対応を非常に重要な要素としており、全体の78.5%が個別指導に重点をおいており、家庭訪問等の訪問指導も23.4%と高い。

さらに、インターシップ（職業体験）も26.2%と高く、実習など現場に直結した教育プログラムの構築に力を入れていることから、「ニート・フリーター」対策として、高等専修学校の職業教育が、勤労意欲を育てるために有効であることは明らかである。また、スクールカウンセリング24.3%やキャリアカウンセリング18.7%とカウンセリングを積極的に取り組んでいることから、内面から意欲を引き出す取組を実施していることがわかる。さらに、学校用アンケートの間4の考察結果にある、各校の工夫している点に、目を通していただければ、具体的に、どれだけの努力と工夫をしているかがうかがえる。考察にもあるが、高等専修学校は職業教育、人間教育はもとより、学校生活のありとあらゆる生徒の活動が職業観の育成へと繋がっており、全ての教職員が生徒一人ひとりを確実にサポートしている体制が整っている理想的な学校であると言える。

そのような高等専修学校の職業教育を受けた結果、「ニート・フリーター」になる要素をもった生徒が、学校用アンケートの間3の考察よりわかるように、82%を越えて、進学若しくは就職をしており、フリーター、ニートにならないように進路決定されていることがうかがえる。具体的な数値でみると、就職者が、平成17年度37.2%、平成16年度33.5%、平成15年度30.7%となっており、年々就職率は向上している。

さらに、生徒用アンケートの間3の考察にあるように、高等専修学校入学後は、目標を見つけ前向きに進んでいる生徒が増えており、ほぼ100%近くの生徒が学校に

登校しており、「友達や仲間ができましたか。」の問に対して「はい」と回答した生徒は5,799名(94.4%)とかなり高い率を示していることから、コミュニケーションが苦手な生徒達が、心理的に成長している教育的な効果が見える結果となっている。

また、生徒用アンケートの問4の考察をみると、就職希望が約半分と多くの割合を占め、高等専修学校は職業教育を軸とした人材育成に貢献していること、そして、進学希望で職業を意識した専門学校への進学希望の割合も高く、高等専修学校の職業教育が生徒へ浸透していることがわかる。

さらに、生徒用アンケートの問5の考察にもあるように、高等専修学校が、生徒達の目標(資格・専門分野)に向かって楽しく積極的に勉強することができる環境があり、人間教育の面からも生活に活力をあたえていることが読み取ることができる。

これらのアンケート結果を総合して判断すると、高等専修学校の職業教育は、「ニート・フリーター」問題を解消する大きな可能性を持っており、重要な役割をすでに担っていると言える。

しかし、このような成果を上げている高等専修学校が、まだまだ社会的な認知度が低く、重要性が浸透していない状況があることも事実であり、これは大変残念なことであると思われる。各学校は、それぞれ努力をし、高等専修学校の存在意義をアピールしているが、現在の認知度の低さを大幅に改善するまでにはいたっていない。

そこで、行政側からも、高等専修学校の職業教育を、より活用できるように、制度上の位置づけを改善していただき、後期中等教育機関の中で、高等専修学校の職業教育こそが、広く社会に広がることを強く望むしだいである。

「フリーター・ニート」問題に対する  
高等専修学校の教育支援に関する実態調査  
報告書

発行日 平成19年2月

発行 全国高等専修学校協会  
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25  
(私学会館別館)  
電話 03-3230-4814